

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
東京動物専門学校	平成2年3月31日	北村 健一	〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1093番8号 (電話)047-459-0511				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人川原学園	平成2年3月31日	北村 健一	〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1093番8号 (電話)047-459-3500				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
農業	動物管理専門課程	動物管理科	平成6年文部科学大臣告示 第84号				
学科の目的	動物分野の就職先は野生、愛玩、産業動物と幅広くそれぞれの分野に実践的に対応する基本的な能力、技術力を多くの動物との実践教育の中から習得することを目的とする						
認定年月日	平成26年 3月31日						
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技
	2年	2451単位時間	945単位時間	0時間	1506単位時間	0時間	0時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		時間
280人	207人	0人	11人	17人	28人		
学期制度	■前期 :4月1日～8月31日 ■後期 :9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実技試験、受講態度、欠席等総合判定を行う			
長期休み	■学年始め:04月01日 ■夏季:07月19日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月5日 ■学年末:03月04日～3月31日		卒業・進級条件	1年前期・後期、2年前期、後期、総ての学期単位を取得する。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者と密の連絡を取る		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 直接該当する国家資格 無			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 動物園 水族館、観光牧場 酪農畜産 等 ■就職指導内容 詳細に個別指導 ■卒業生数 105 人 ■就職希望者数 102 人 ■就職者数 : 102 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 97 % ■その他 ・進学者数: 2人 就職状況 動物園等(恩賜上野動物園他23施設 38名)・水族館等(鶴川シーワールド他7施設9名)・観光牧場等(マザー牧場他3施設7名)・馬関係(ホースドレッシングファーム他1施設2名)・酪農畜産等(サンハイファーム他4施設6名) その他動物関連25施設32名 動物関連外7施設8名 (令和 5 年度卒業者に関する 令和6年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3				
中途退学の現状	■中途退学者 13 名 令和5年4月1日時点において、在学者207名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者194名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の都合 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席者に対して、早い段階から個別指導を行い、欠席を長引かせない指導を行う		■中退率 6.3 %				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 貸与型奨学金(学費の満額)無利息 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.tokyowildlife.ac.jp						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

2年間を4期に分けて企業と連携を計る。それぞれの期で学んだ項目を相互に関連させ、無意識に実行することができる一連の日常管理として身に付けた上でできる限り多くの動物種の飼育管理を経験させる。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校学則に委員会の設置が規定されており、それを受けて委員会規則を制定しております。そのため、委員会では、企業側や有識者などからのご意見などを取りまとめ、学校長へ様々な提言をしております。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2024年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
大矢 秀 臣	全日本動物輸入業者協議会 会長	2023年4月1日～2025年3月31日	①
成 島 悦 雄	公益社団法人日本動物園水族館雑誌編集顧問	2023年4月1日～2025年3月31日	①
片 井 信 之	NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク非常勤職員	2023年4月1日～2025年3月31日	③
都 築 信 隆	下田海中水族館 飼育課長	2023年4月1日～2025年3月31日	③
須 田 泰 弘	マザー牧場 総務課長	2023年4月1日～2025年3月31日	③
岡 村 秀 夫	千葉県三和酪農農業協同組合 参事	2023年4月1日～2025年3月31日	③
川 原 一 志	非常勤講師	2023年4月1日～2025年3月31日	
北 村 健 一	学 校 長	2023年4月1日～2025年3月31日	
米 澤 努	副学校長	2024年4月1日～2025年3月31日	
川 原 亜 記	事 務 長	2023年4月1日～2025年3月31日	
米 谷 良 一	学生課長	2023年4月1日～2025年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 定期開催

第1回 令和5年 5月16日 14:00～16:00

第2回 令和5年12月12日 13:00～15:00

第1回 令和6年 5月14日 14:00～16:00

第2回 令和6年12月10日 13:00～15:00（予定）

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学生の動物園水族館に関する知識が深りに表面化する事の対策として、基礎動物研究法の内容を大幅に変更実施。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

動物関連企業は、愛玩動物系を扱う企業から、公私立動物園、水族館、観光牧場、酪農、畜産と分野が広い。戦力となり得る人材を育成するために、動物種の選択、扱う回数等々、細やかな指導を行う

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1年では、動物管理発展実習に始まり、2年では、応用実習、実践実習を実施し、成果評価は本校の評価規定に基づくものである。また、2年後期の施設研修は、企業の評価による。（施設研修評価表）なお、施設研修時には、研修期間中に必ず本校教職員が訪問し、施設長と研修生に面談し、施設長に評価について依頼している。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物管理学発展実習	動物管理学基礎実習を基本として、学んだ技術を多様な動物種に用いることで、日常の管理方法の実践を学ぶ。なお、3週間職業実践実習(動物別)の基礎実習を行う。	川原鳥獣貿易株式会社
動物飼育学応用実習	動物の日常管理を意識して実行することを学ぶ。飼育棟の出入り、観察方法、健康状態の把握、動物舎の管理方法、適切な餌の質と量、脱出防止。	川原鳥獣貿易株式会社
動物飼育学実践実習	本校における学習及び施設研修で体験したことを実践し、卒業後、就職施設においてスムーズに就業できるよう学習する。	川原鳥獣貿易株式会社
施設研修	本校で学んだ知識・技術を社会で体験させ、又就職活動の一助として、発表する場を設ける。	豊橋市総合動植物園等77施設
社会学概論	各分野の卒業生が講師であり、これら専門家の話を聞くことで、仕事に対する見聞を広めると共に理解を深める。	東京都多摩動物公園等13施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学則施行規則では、教職員は最新の知識や知見の習得に努めることとなっている。そこで、規則に基づく教職員研修等実施要項により、全国の動物関係施設での研修(視察)を実施しているが、これにより、企業などとの密接な連携を図り、教職員が最新の実務知識や技術を自己のものにできるようになるものと思われる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 特別案内授業研修 4月～6月(延べ6日間) 学生指導教員他12名、上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園
内容: 専門家による近隣動物園、水族館の見どころや問題点など多岐にわたり解説した。
- 社会学概論研修 4～6月(延べ7日間)、学生指導教員12名、多摩動物公園他
内容: 企業担当者や本校卒業生による企業の業務内容を具体的かつ詳細に説明。
- 地域施設研修は、例年、施設研修施設や就職先施設を訪問し、施設長や卒業生などから最新の情報を得ることが出来るなど大変有意義な研修であり、一昨年同様に実施できた。
- 施設研修先教職員研修 10月19日～11月17日 学生指導教員等9名 豊橋市総合動植物園他77施設。
内容: 現場で企業責任者から、企業の実情から、望ましい職員像までの指導を受ける
- 学外見学引率時研修 10月10日 学生指導教員他4名 群馬サファリパーク・伊香保グリーンパーク
10月11日 学生指導教員他4名 栃木県なかがわ水遊園・大洗水族館
10月12日 学生指導教員他4名 よこはま動物園ズーラシア
内容: 各施設とも園長よりレクチャーを受ける。企業概要などを聞き、実際に見学、体感することで学生は具体的に進路や就職に対し、前向きになることができた。
- 教職員研修会
現職の高等学校長による「高等学校の進路指導について」講演

② 指導力の修得・向上のための研修等

例年、各種講演会、講習会などに、積極的に参加していたが、その多くが未開催となり、不参加である。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. 施設研修先教職員研修 10月～11月 学生指導教員等9名 研修先約70施設
内容: 現場で企業責任者から直接指導を受ける
2. 社会学概論研修 4～6月:計7日間、学生指導教員他14名、上野動物園、鴨川シーワールド
内容: 企業実務者による、企業の業務説明
3. 学外見学引率時研修 10月 学生指導教員他8名 静岡方面等の動物園や企業
内容: 施設長による講義を受講

② 指導力の修得・向上のための研修等

学内での教員・教職員研修は、学年始期に実施を予定し、又外部講師による全教職員参加の研修会も行う予定。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、更なる学校運営の改善のための評価とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育成果
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令などの遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

一例として、学校関係者評価委員会において、就職先の決定に関し、「絞り込み」が足りないとの指摘を受けたのを受け、動物園や水族館の実態把握を目的として、少人数でベテラン飼育関係者による「特別案内事業」を開始している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
山田 厚志	芝国際中学高等学校 教諭	2023年4月1日～2025年3月31日	高校教諭
土門 亜季	東京動物専門学校 保護者	2023年4月1日～2025年3月31日	保護者
中田 亜希	東京動物専門学校 保護者	2024年4月1日～2026年3月31日	保護者
岡本 元江	東京動物専門学校 卒業生	2023年4月1日～2025年3月31日	卒業生
片井 信之	NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク非常勤職員	2023年4月1日～2025年3月31日	企業等
川原 一志	非常勤講師	2023年4月1日～2025年3月31日	
北村 健一	学校長	2023年4月1日～2025年3月31日	
米澤 努	副学校長	2024年4月1日～2025年3月31日	
川原 亜記	事務長	2023年4月1日～2025年3月31日	
米谷 良一	学生課長	2023年4月1日～2025年3月31日	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.tokvowildlife.ac.jp> 公表時期については、5月末とする

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

正確で、最新の多くの学校関係情報を提供しよう努めているが、その目的は、企業側の本校(学生)に対するより正確な判断材料としていただくものであり、本校にとっても、本校をより理解していただくことで、それが求人など就職につながることを期待している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要
(2) 各学科等の教育	教育活動
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育活動
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	経済支援
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	地域貢献、地域連携

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://tokvowildlife.ac.jp> 学校フェイスブック、学校X(旧ツイッター)

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			動物管理学基礎理論	動物管理実習を行うための基礎管理方法を理論的に学ぶ。	1前	21	○			○			○		
○			基礎動物学総論	今まで身に付けた断片的な知識を整理し直し、生物全体を見ることができるよう、生物学の基礎を系統的に学ぶ。生物を理解するために、目的意識の上で化学の基礎を学ぶ。	1前	21	○			○				○	
○			基礎動物解剖学	動物体を理解する為の基礎は、「体の構造」と「機能」を知ることであり、その形態と構造をありのままに記録する方法を学ぶことにより、解剖学的なものの見方と考え方の基礎を学ぶ。	1前	21	○			○				○	
○			基礎動物生理学	「体のはたらき(機能)」を学ぶ。動物解剖学と同じく、単に動物体の機能を学ぶのではなく、生理学的なものの考え方を身に付けるのが目的である。	1前	21	○			○				○	
○			基礎動物研究法	問題点を具体化し、計画・調査・まとめ・発表と続く一連の動物研究法の過程を通して、自然現象を正しく認識し、整理することのできる基礎的な考え方を身に付ける。	1前	42	○			○			△	○	△
○			動物に関する法律	世界的規模での野生動植物の保護運動、愛玩動物や植物に対する愛護精神の普及に伴い、それらに様々な法的規制が行なわれている。仕事を遂行するための法律の内容を学ぶ。	1前	21	○			○			○		
○			動物管理学基礎実習	基礎的な項目を身に付ける。①作業に使う用具の名前と用途、②飼育動物の身になって清掃ができること。③複数の仕事を一定時間で計画的に消化できること。④小型動物の保定ができる。	1前	84				○	○				○
○			基礎動物学実習	動物飼育の導入部である。動物を取り扱うために必要な基礎的技術やフィールドワークの方法などを学ぶ。	1前	32				○	○				○
○			自己健康管理学	社会に出てから常に自分の体調を最良の状態に整え、コントロールすることの出来る保健的技術を身に付けることと動物の仕事に必要な体力を付けることを学ぶ。	1前	32				○	○			○	
合計					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			学 校 行 事 (1)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。入学式・オリエンテーション・健康診断。	1 前	42			○	○		○			
○			資料検索法	自分が必要としている資料にたどり着くまでの方法論を勉強する。又、日常購読している資料を、有事の際に備えてどのように整理保存しておくかの方法も併せて学ぶ。	1 前	21		○			○			○	
○			知識の整理法	統計的手法に用いられている数学的な考え方に重点を置き、その基礎を学ぶ。	1 前	21		○			○			○	
○			システム化の方法(1)	現在代表的な高級言語のひとつである「C言語」を理解し、プログラムを構築する方法を学ぶ。	1 前	21		○			○			○	
○			システム化の方法(2)	将来動物管理をすることを目的として、PCの基本的操作を学ぶ。	1 前	21		○			○			○	
○			動物関連応用 邦語	動物に関する図書を購読することによって、日本語の読解力を養成する。又、動物観察を通して、動物の動作・行動などをありのまま文章に表す訓練をし、日本語の表現力を養う。	1 前	42		○			○			○	
○			動物関連基礎 英語	非常に基礎的な英語を使って文章を正しく「読み」、「書く」技術を学ぶ。「聞く」、「話す」基礎的な英語の技術を身に付けるのが本科目の目的である。	1 前	42		○			○			○	
○			社会学概論	様々な分野の第一線で活躍する人々を招き、専門の話聞くことによって見聞を広め、各人の仕事に対する夢や生きがいについて考える。	1 前	21		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物管理学発展理論	動物管理学基礎理論と実習を基本として、これらの技術を多様な動物種に用いることで、日常の管理方法の理論を学ぶ。なお、3週間職業実践実習(動物別)の基礎理論を学ぶ。	1後	63	○			○		△	○	
○			動物栄養学	栄養分がいかに吸収、代謝され、体の機能にどのように作用しているかを学ぶ。さらに、現在非常に普及している人工飼料についても学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			動物繁殖生理学	繁殖にまつわる動物体の機能についての一般的な基礎知識を学んでいく。これらは各論において各々の動物を学ぶ時の基本的な知識につながる。	1後	21	○			○				○
○			基礎動物遺伝学	本知識は、動物を取扱う上で欠くべからざるものである。種の保存、先天的遺伝疾患の排除など、すべて正しい遺伝学的知識の基礎を学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			ペット動物学	ペット動物学で扱う動物種は、イヌ類とネコ類で、①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			ゲッ歯類学	ゲッ歯類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			霊長類学	ゲッ歯類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			食肉類学	食肉類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	1後	21	○			○				○
○			有蹄類学	有蹄類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	1後	21	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			仕事論(1)	「働く」ことの意義、自分をきちんとみつめ、仕事の適正等々を理論的に学習し、具体的に履歴書に記入する自己紹介や、志望理由の記述練習をする。	1後	21		○			○			○	
○			動物管理学発展実習	動物管理学基礎理論と実習を基本として、これらの技術を多様な動物種に用いることで、日常の管理方法の実践を学ぶ。なお、3週間職業実践実習(動物別)の基礎実習を行う。	1後	252				○	○		△	○	○
○			学校行事(2)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。学校祭・送別会・卒業式・避難訓練。	1後	84				○	○			○	
合計				科目											単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物飼育学応用理論	動物の日常管理や、非日常管理の方法を理論的に学ぶ。	2前	63		○			○			○	
○			自然保護論	自然保護と一口に言っても、非常に複雑な問題がからみ合い、大変難しいものである。自然保護を考え、視野の広い見方を学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			動物疾病学概論	「動物が病気であるとは、どのような状態なのか。」「疾病を起こす原因は何か。」「疾病を未然に防ぐのにはどうすればよいか。」など、動物の疾病について学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			動物微生物・寄生虫学	微生物とはどのような生物であるかを学ぶ。同定法、薬剤耐性試験の方法、治療法などを学ぶ。よく登場する寄生虫について、分類、生活様式、感染様式、症状、治療法について学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			動物・公衆衛生学	動物から動物へ疾病が感染するのを予防するにはどうすればよいかを学ぶ。人畜共通の疾病を学ぶ。感染性の疾病予防及び発生したときの対応と処置の仕方について学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			鳥類学	鳥類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			両生・ハ虫類学	両生・ハ虫類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			水族学	魚類、水生生物学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21		○			○			○	
○			特殊動物学	分類学的には独立し、その形態や生態が特有で種数が少ない動物の①分類、種類、分布と生態②特有な解剖学的な特徴③特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			仕事論(2)	仕事論(1)で学んだことを総括し、就職に対する考え方、準備、試験の受け方、及び反省という具合に就職に関する技術を時系列に沿って学習することを目的とする。	2前	21	○			○			○	
○			動物飼育学応用実習	動物の日常管理を意識して実行することを学ぶ①飼育棟への入り方②動物体の観察方法③排泄物による健康状態の把握④動物舎の管理方法⑤適切な餌と質と量⑤脱出防止。	2前	252			○	○			○	○
○			学校行事(3)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。入学式・健康診断・避難訓練・歓迎会。	2前	42			○	○			○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	前期
		1 学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物飼育学実践理論	実践実習に伴う作業を理論的に学び、飼育業務の一連の事務作業や飼育管理のための管理業務を理論建て学ぶ。	2後	105					○			○	
○			動物飼育学実践実習	本校における学習及び施設研修で体験したことを実践し、卒業後、就職施設においてスムーズに就業できるよう学習する。	2後	420				○	○			○	○
○			施設研修	本校で学んだ知識・技術を社会で体験させ、又就職活動の一助として、発表する場を設ける。	2後	182				○	○			○	○
○			学校行事(4)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。学校祭・卒業式・避難訓練。	2後	84				○	○		○		
合計				科目											単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。